

手段としての「非文字」

—資料と方法のあいだ—

開催日時 ▶ 2008年1月26日(土) / 10:30~18:00(受付開始10:00)

開催場所 ▶ 神奈川大学16号館視聴覚ホールB(収容人数100名)

事前申込
不要

趣旨

神奈川大学21世紀プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」に関わった若手研究者(PD、RA)を中心に、それぞれの具体的な研究の「現場」から、「非文字」の方法としての可能性、およびそれを資料化するプロセスについて考え、議論しあうことによって学問の共有財産にしていく試みである。

プログラム

10:30~10:35

開催のことば 山口 建治
(事業推進担当者・ワークショップ実行委員会委員長)

10:35~10:45

ワークショップの経緯、趣旨と構成 王 京
(司会)(PD、同実行委員会委員)

セッション1 絵画を読み解く

10:45~11:20 彭 偉文(RA)

「記録手段としての絵画—「姑蘇繁華図」に描かれた女性を例として」

11:20~11:55 佐々木 弘美(RA)

「絵画の構図をよむ— 一遍聖絵の場合」

—— 昼休憩 ——

セッション2 フィールドで考える

12:50~13:25 土田 拓(RA)

「調査写真の性格と用法— 景観の中のコンクリートブロック」

13:25~14:00 櫻村 賢二(元PD)

「調査写真の資料化— 韓国のオートバイ宅配便調査を事例に」

14:00~14:35 宮本 大輔

(日本学術振興会特別研究員・元RA)

「非文字と言語— 北京大学生の言語イメージを通して」

—— ブレイク ——

セッション3 博物館から展望する

14:50~15:25 大西 万知子(元RA)

「感性を展示すること— 英国と日本の事例から」

15:25~16:00 丸山 泰明(元PD)

「21世紀における博物館の可能性— 北欧で考えた二、三のこと」

—— ブレイク ——

16:15~16:45 コメント 香月 洋一郎
(事業推進担当者)

..... 北原 糸子
(事業推進担当者)

..... 青木 俊也
(松戸市立博物館学芸員・COE教員)

16:45~18:00 総合討論

18:00 閉会のことば 土田 拓
(進行役)(RA、同実行委員会委員)

問
合
わ
せ
先

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学COE支援事務局
TEL:045-481-5661(内3532)
FAX:045-491-0659
E-mail:himoji-coe@kanagawa-u.ac.jp



Access Map

